

自閉症支援トレーニングセミナーの開催

福島県自閉症協会

〒970-8026 福島県いわき市平字杉平 10-4

助成事業の概要

福島県に於いては、自閉症の診断ができる医療機関が少なく、さらに教育・福祉・就労機関などで適切な支援を受けることができずにいる自閉症児者が存在している。自閉症児者の発見と適切な診断や支援提供を開始するためのシステムの構築、人材育成が急務である。そこで、当事者のアセスメントに基づいた支援目標の設定や療育セッションの準備、セッション後のカンファレンスなどを通して、理論を実践に応用する過程を体験的に学ぶことができる「自閉症支援トレーニングセミナー」を 2009 年から開催してきた。

本事業は福島県 IEP 研究会の共催を得て、平成 31 年 8 月 2～4 日に福島県郡山市「郡山ユラックス熱海」及び「ふくしま医療機器開発支援センター」にて行った。運営スタッフは、3 日間で延べ約 70 名に及んだ。

セミナーの受講生は 24 名である。講師に、内山登紀夫先生（大正大学）、諏訪利明先生（川崎医療福祉大学）、中山清司先生（自閉症 e サービス）、真船亮（bon ワークス牧方）を招き、当事者への直接支援を通して TEACCH プログラムの理論と支援の実際を実践的に学んだ。一般公開講座（参加者 240 名）を兼ねた初日は、「TEACCH が大事にしていること」、「自閉症スペクトラムの特性理解」、「構造化のアイデア～正しく活用するために」の 3 講義を行った。2 日目は「評価と構造化のポイント」の講義とセッション 1 つ、3 日目は「余暇・地域活動の組み立て」の講義とセッション 2 つ、全体発表会や閉校式を行った。

事業の成果

本セミナーの第 1 日目は、自閉症児者の保護者や支援者などを対象とした「一般公開講座」として公開し、トレーニングセミナー受講生 24 名に加え 240 名の参加を得た。自閉症スペクトラムの認知特性やアセスメントの基本、実際の支援方法などの講義を行うと共に、日常生活や支援現場での疑問や困っていることに対する参加者からの質問に講師陣がその場で答える時間を設け活発な議論を行った。

第 2～3 日目には、幼児期・学童期・青年期の自閉症当事者 3 名の協力を得て、アセスメント、療育セッションの計画・準備、セッション実施、事後カンファレンスを通して実践的トレーニングを行った。講師には事前に当事者のプロフィールを伝えておくと、講師も受講生も協力を得る当事者とはセミナーの場が初対面である。初対面の当事者をどう理解し、どう準備し、どう関わっていくか、また行った支援をどう評価し支援の見直しをするかなどについて、講師がファシリテーターとなりながら受講生と一緒に議論し準備し支援をするという、現場感覚を味わいながらの研修をすることができた。さらに、セッションと並行して講義を行い、理論と実践を繋げて理解を深めた。

受講生は、普段の業務では出会えない領域や対象年齢の専門家同士であり、受講しながら相互に交流を深めていた。また、本セミナーを開催するにあたり、福島県内の教育・医療・福祉支援機関において専門的に自閉症児者支援に携わっている専門家団体（福島県 IEP 研究会）の共催を得

ており、県内の支援専門家がスタッフとして準備・運営・反省まで参加いただくと同時に、本会会員や受講生との交流を持つことができた。その結果として、セミナー終了後に“顔の見える連携”が行われるようになっている。今後も「生涯に渡って、切れ目のない一貫性のある支援」を実現するための、職種、対象年齢、地域を超えた連携や交流が盛んになることが期待できる。

■ 成果の広報・公表

1、後援名義使用申請及び事業報告

福島県や福島県教育委員会、福島県社会福祉協議会をはじめ、全 23 事業所・団体の後援を得て開催した。セミナー終了後は、講義資料を添付し開催概要を報告した。

2、報道

後援を得た「福島民友新聞」が、セミナー開催についての記事を掲載した。

■ 今後の展開

自閉症児者の支援に関しては、早期発見・早期支援が大切とされている。そのため本会では、多くの支援の専門家に正しい障害特性理解と支援技術を身に付けていただきたいと願っている。また、幼児期・学童期・青年期・成人期などライフステージの違いに合わせた支援を一貫性を持って提供されるよう、支援者が連携していくことができる支援体制が構築されることを期待している。

福島県は全国で 3 番目に広く、本会 6 地区のうち開催は 3 地区のみであり、未開催地区での開催が望まれている。また、毎年受講希望者が定員を超え参加できていない支援者が多いこと、一度受講した後に現場に戻り新たな課題を見つけた受講生が再度受講を希望するケースがあることなど

から、セミナーの継続が強く求められている。

本セミナーのスタッフは自閉症児者の親と支援の専門家であり、準備会や 3 日間のセミナーに参加すること自体が大きな時間的負担であり、また講師以外のスタッフ全員がボランティア(無報酬)だが、福島県内で自閉症児者がよりよい支援を受けられるようになるためにと情熱を持って携わっている。今後もスタッフとなる人材確保と実施のための予算確保が大きな課題であるが、成果をあげている本事業を継続していきたい。